

技術提案書 1 (課題についての提案) 課題2 本市の中心市街地の特徴を生かしつつ、シンボリックな施設として、周辺の既存施設及び景観や環境に配慮した敷地及び周辺のゾーニング・動線などの土地利用計画と、この施設を構成する基本的機能と有機的連携を最大限発揮する考え方について

### まちと呼応し、にぎわいを創出する =「まち」「図書館」「ギャラリー」「駐車場」の 最適な複合化を実現する

まちと新文化複合施設(図書館・ギャラリー・駐車場)の有機的連携を実現するために最も大切なことは、建物の諸要素を周辺環境と呼応するように配置することである。私たちは以下の検討を踏まえ、「まちと呼応し、にぎわいを創出する」米沢市新文化複合施設を提案する。

#### A. 周辺環境と呼応する

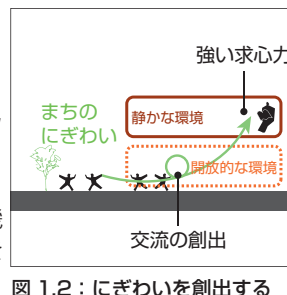
周辺環境と呼応し有機的連携を発揮する為には、次の3点を満たすような多面的な構成を持たせることが大切であると考えます。

- まちの広場と一体感のある空間構成とすること
- 平和通りに正面性を創り出し、人の流れを生み出すこと
- 駐車場からの快適なアクセスを確保すること。



#### B. にぎわいを創出する

周辺環境と呼応することを考えると、1階部分を開放性の高い空間とし、にぎわいを生み出す機能(市民ギャラリー)を配置することが好ましい。落ち着いた環境を持つ2階には、市民を惹きつける強い求心力を持つ機能(図書館)を配置し、新しい交流を誘発することが適切であると考えます。



### 1階: 市民ギャラリー / 2階: 図書館

#### ポイント1 まちの広場と一体で利用できる構成

敷地西側に隣接するまちの広場やまちの広場線は、上杉まつりの出発点となる米沢市の代表的な交流空間である。本提案では、まちの広場と連続するオープンスペースを建物内に計画し、一体的な利用が可能な計画とする。



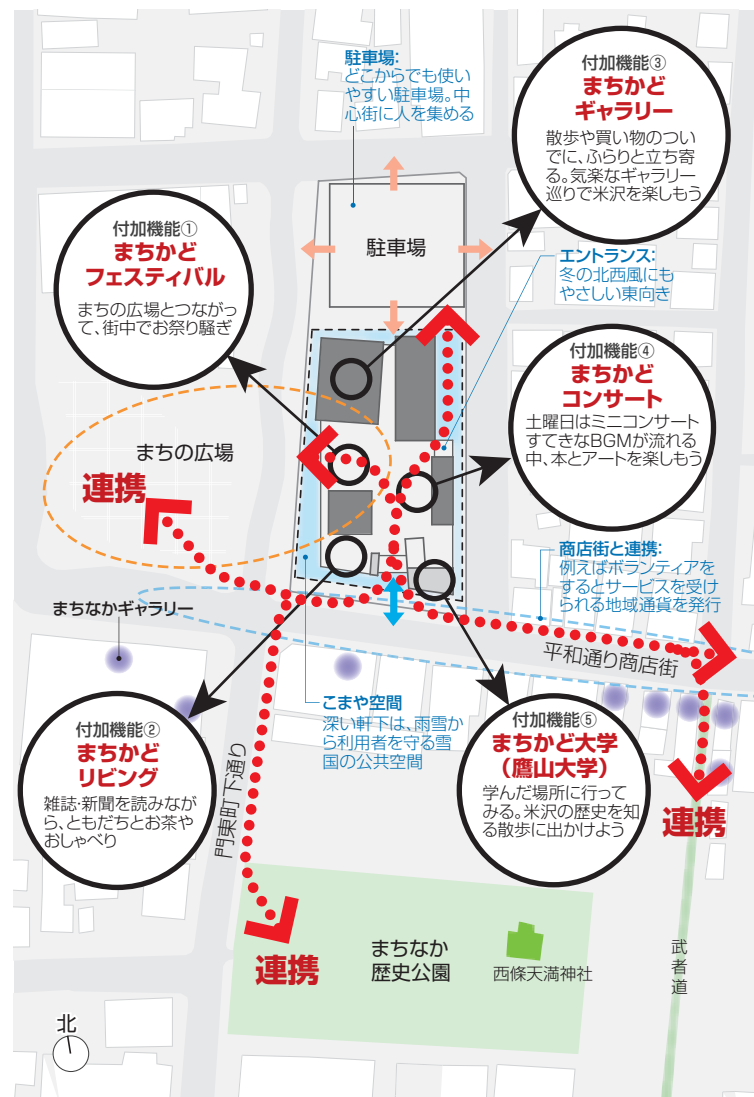
#### ポイント2 平和通りに正面性を持たせる構成

平和通り側に正面性を持たせ、米沢市の一番町・平和通りの活性化に配慮した計画とする。また、道行く人々から見える場所に米沢カフェや鷹山ホールなどを配置し平和通りに、にぎわいを演出する。



#### ポイント3 まちなかギャラリー

まちなかギャラリーとの関係性に配慮することは、市民の芸術活動と本施設の間、より強い結びつきを生み出すために大切である。本提案では、入りやすい雰囲気大切に計画し、まちなかギャラリーに立ち寄りやすい気軽さで利用できる空間を提案する。



#### ポイント4 「歴史の知」と「歴史の風景」をつなぐ

新図書館は、米澤善本に代表される「歴史の知」と、整備が予定されているまちなか歴史公園や武者道などの「歴史の風景」をつなぎ、郷土を学ぶ実践の場として、整備することを提案する。



#### ポイント5 こまや空間

雪国の風景を特徴づける景観要素である「こまや」は、降雪時の実用性が高く、高齢化社会を迎える現代に受け継ぎたい知の財産であると考えます。本提案では、建物外周部をこまや的な深い軒下空間として計画し、米沢の景観との調和を構築する。



#### ポイント6 冬季の雪対策・北西風対策

冬季の利便性・安全性に配慮し以下を計画する。

- 駐車場側エントランスは東側に設け冬の北西風から利用者を守る。
- 「こまや空間」は、1階のガラス面を積雪荷重から守る。
- 外構には無散水融雪を設け歩行者にも優しい計画とする。
- 軒先に電熱線による融雪装置を設置し、つららを防止する。



### 知と交流のシンボルを創る =米沢のエッセンスを集めた外観

米沢市立図書館の歴史は古く、直江兼継公の蒐集書籍に遡る。外観デザインにおいてはまず、この知識の伝統に対する敬意を表したいと考え、全体構成として水平線を基調とした和の意匠を踏襲し、知のシンボルとした。

1階は全体的な市民が気軽に訪れる開放性を併せ持つデザインとする。現代的なデザイン要素を付加し、活気ある市民ギャラリーを象徴する。

伝統性と現代性、ふたつの要素は縦格子(西日の低減)や軒下空間(雪よけ)などを用い、統一感を持たせた。窓や軒など細部の形・ディテール・色彩等については、実際に市内に残る歴史的な街並み・家屋・蔵等を参照し、米沢のエッセンスを集めたデザインとしている。

西側ファサードのデザインは、まちの広場との関係性を強く意識した。まちの広場と一体となり、米沢市の交流を象徴する空間を創出する。

